

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2015年
8・9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

平和の使者として立つ

主教 アンデレ 中村 豊

5月14日(木)、曇天のなか、神戸バイブル・ハウスのポーランド巡礼者一行を乗せたバスは、アウシュビッツに到着しました。受付を済ませた頃から雨がぽつぽつと降りだし、収容所の見学が開始されると本降りとなりました。まるで、絶望のどん底に落とされた収容者の涙が私たちに降り注ぎ、何かを訴えているかのようにでした。

知恵を結集した殲滅作戦

ナチス・ドイツがヨーロッパ各地に建てた収容所で、ユダヤ人だけでも約600万人が命を失いました。アーリア人種の優越性を誇示し、ユダヤ人やナチ

ス・ドイツに反抗する者は人間以下の存在であるという人間観に基づき、大量の人間を抹殺するためには組織的かつ合理的な工場の設置と交通の利便性が要求され、ヨーロッパのへそともいえるアウシュビッツが選ばれたのは当然といえれば当然なのです。

ナチス・ドイツが、この場所を徹底的に破壊することなく遺棄したのは、広島原爆ドームや平和記念資料館と同様、都合の悪い存在を大量に殺すために、人間というのは英知を結集するということです。70年前の動かしがたい事実の証人となるためです。建物の入り口の壁

に書かれている通り、「歴史を振り返らない者は、同じことが起こされる時、それに加担する人生を歩む(注1)」のです。私たちは、ビルケナウ収容所側にある聖マリア教会礼拝堂で、収容所犠牲者と世界の平和のために祈りを献げました。



沖繩慰霊の日 戦後70年記念礼拝

沖繩戦の悲慘

6月23日(火)、日本聖公会の

全教区主教及び大韓聖公会の首座主教と大田教区主教が北谷諸魂教会に集い、沖繩教区主催の「沖繩慰霊の日、戦後70年記念礼拝」に参加しました。高台にある諸魂教会礼拝堂西窓の向こうには、静かでのどかな海が広がっておりましたが、70年前は、沖繩の人口を遙かに上回る兵隊がひしめき合った艦船が、びっしりと海面を覆っており、青々とした木々がそよぐ東窓の向こうでは、猛烈な艦砲射撃によって行き場を失い、右往左往する島民たちの姿を見ることができたことでしょう。大韓聖公会ソウル教区オモニ聖歌隊と共に私たちは、「うみが血にそま

り、のぞみがうばわれ、どうくつのなか、たえゆくいのち、すくいをもとめて、なげぶ(注1)に、主よ、あなたは、どこにおられた…(聖歌423番・山野繁子司祭作詞)」を歌い、沖繩戦犠牲者の霊魂の平安を神に祈りました。

を通してアメリカ国民に、「敵ではなく、私たちに原爆が与えられたことを神に感謝します。神の目的のため、御旨のままに、この爆弾が使用できるように私たちを導いてください(注2)」と祈り、原爆投下を正当化しました。

では、私たちの祈りはどのようなものなのでしょうか。敵・味方を選別してしまう傲慢、偏見、差別、ねたみ、利己心を自分自身が抱えていることへの気づきと心からの懺悔、そして、和解によってしか実現されない平和の使者として立つことを、神の前で明らかにすることなのです。

(注1) the one who does not remember history is bound to life through it again.

(注2) We thank God that it has come to us, instead of to our enemies; and we pray that He may guide us to use it in His ways and for His purposes.

(神戸教区主教)

70年前、広島への原爆投下が無事終了した知らせを聞いたとき、トルーマン大統領はラジオ

沖縄の旅に参加して

司祭ヨシユア 長田 吉史

今年の沖縄週間・沖縄の旅は

6月20日(土)から23日(火)の間、開催されました。今年は戦後70年の年ということもあって、各教区からたくさんの方々が集まりました。主なプログラムとしては、1959年6月、石川市で嘉手納基地を飛び立ったジェット機が操縦不能となり、民家35棟をなぎ倒したあと、宮森小学校に墜落、炎上し、死者17名(小学生11名、一般住民6名)、重軽傷者210名を出す大惨事を伝える映画を見、その映画の脚本の元となった被害者や遺族の証言集をまとめた久高政治さん(当時宮森小学校5年生)の講演をお聞きしました。そして今、ますます緊張度を増している辺野古地区へ行って祈り、最終日には日本聖公会各教区の主教、そして大韓聖公会の主教や聖歌隊の皆さんをはじめ、たくさんの方々と共に、「慰霊の日」の礼拝に参列しました。今年の聖句は『キリストの平和があなたがたの心を支配するようになさい』(コロサイ3・

15)でした。でもそのみ言葉を実らせるためには、「わたし」の平和ではなく、「キリスト」の平和を求めることであること、強く感じました。



クレメント 井熊 大輔

この度「沖縄週間・沖縄の旅」に参加させて頂きました。

今年、戦後70年を迎える年であること、特に辺野古への基地移転が注目を浴びていることから、「今、沖縄で何が起きているのか。この目で現地を見たい」という気持ちから参加させて頂きました。

プログラムの講演会で話を伺ったり、また基地を実際に見た

りと、沖縄教区の兄弟姉妹の生活が、常にこんなに基地の危険と隣り合わせである状態に晒されていること、そして、日米の条約とその重さを沖縄がこんなにも背負っていること。そして基地がなくれば良いでは終わらない複雑な状況がたくさんあることを感じました。何より、沖縄教区上原主教様の「沖縄戦は続いている」という言葉がショックでした。自分の目で本物を見る大切さをも痛感しました。そして、現地で本物を見ていないがために、差別や偏見といった二次問題が生じる危険性の高さを感じました。

この沖縄週間に参加するにあたり、念頭においていたのが、「主の平和とは何なのか」ということです。全ての人のための平和とは何なのか。それは「神様のみ心」であるとのこと。私たち人間は神様ではありませんから、争いなどの罪を犯してしまいます。しかし、自分の思いと言葉と行いが、神様のみに叶うように、一生をかけて、罪の赦しの祈りとキリストの平和の宣教の努力を怠ってはならないと強く感じました。

(米子聖ニコラス教会信徒)

ラプスレー司祭を囲む会

クララ 吉谷 かおる

本紙3月号で紹介された『記憶の癒し』(榎原・吉谷訳)の著者、マイケル・ラプスレー司祭が先般来日されました。

1990年南アフリカの反アパルトヘイト運動で手紙爆弾の攻撃を受け、両手と片目を失いながらも九死に一生を得たラプスレー司祭は、1992年「記憶の癒し研究所」を設立、世界中を巡回し、自らの体験に基づく和解のメッセージを伝えておられます。広島に癒されるべき痛みの記憶を見ておられたのでしよう。聖公会神学院での公開講演会の後、プライベートでの広島訪問を希望され、6月11日に平和記念資料館、平和記念公園を訪ね、被爆者のお話を聴かれた後、広島復活教会での「マイケル・ラプスレー司祭を囲む会」の交わりに臨まれました。

約60人の参加者は、お話の後の懇談でも、本にサインをいただいたり、親しくお話ししたりして、感激のひとつを過ぎました。

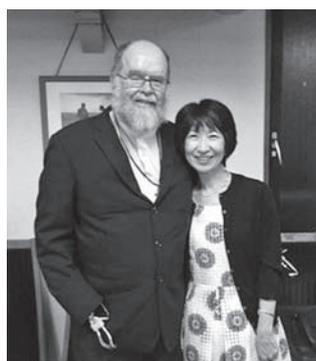
私は『記憶の癒し』翻訳中か

らその苦闘と献身に心を揺すぶられるとともに、独特のユーモアとシャイなどころのあるお人柄に惹かれていたのですが、実際に大きく温かくウィットに富んだ方で、日本語がおわかりでないにもかかわらず(！)、よい翻訳者だと励ましてくださいました。

ラプスレー司祭の軌跡はYouTubeで見られますし、聖公会新聞7月号には東京の聖アンデレ教会聖餐式での説教全文が掲載されていますので、ひとりでも多くの方にそのメッセージに接していただきたいと思えます。

この会のためご尽力くださった広島復活教会の小林司祭、浜井姉はじめ信徒の皆さま、通訳をつとめてくださったポーリーさん、関係の皆さまに感謝申し上げます。

(岡山聖オーガスチン教会信徒)



神戸バイブルハウス主催 ポーランド巡礼の旅に参加して

マーガレット上野 真実



聖マリア教会の前で

5月11日、20日にかけて、神戸バイブルハウス主催のポーランド巡礼の旅へ行つて参りました。毎日色々な教会を訪れてミサをお捧げする事が出来、今後の私の信仰生活において重要な旅となりました。

ある礼拝では、どこかの国の方々と共に祈りを捧げ、言葉は違えどもミサの流れは同じなので平和の挨拶も握手を交わし、心が一つになって神様に向かって、いる事に嬉しさを感じました。

ポーランドの国民性については穏やかだと感じました。行き

交う人々、店員さん、関わった方々を見てもそう感じます。又、17世紀初頭ワルシャワに遷都するまでは首都であった、最も歴史ある都市の一つであるクラクフでは、聖マリア教会、ヴァヴェル城、中央広場を訪れました。

中央広場では、沢山の飲食店や雑貨用品店、お花屋さん、観光客を乗せた馬車も沢山あり、多くの人々で賑わっていました。しかし、大声を出して騒ぐ人がいないように感じたのです。

* * *

この旅で一番私が印象付けられ、伝えたいと思った事はやは

りアウシュビッツ及びビルケナウ収容所を訪れた事です。広大で緑豊かなこの土地で、たった70年前、実際にあんなにも非人道的で卑劣な事があったのかと人間の惨さにとても辛く、悲しみに溢れていました。何の罪も無い人々が囚人と呼ばれ、子ども、妊婦、身体に障がいのある者、お年寄りの方々は働けな



ヴァヴェル城

いとして殺されました。

収容所には、部屋一面の髪の毛、眼鏡、義手義足、台所用品、氏名や住所入りのトランク、壁

全面に積まれた子どもたちの物も含む靴、それらにはすべてに所有者があり、この遺品を見て怒りを覚えました。我が子を必死に守り抜こうとした母の気持ちを

思うと本当に言葉にならない辛さです。又、収容施設やベッド、トイレ、ガス室、焼却炉、マクシミリアン・マリア・コルベ神父が他の人を救う為に入れられた餓死室、何千人もの人々を射殺した死の壁...それらを見て、必死に祈る事で精一杯でした。

前述した中央広場とは別に収容所の中にも中央広場があり、そこでは収容所生活の苦しみの一つ、何時間にも及ぶ点呼の為に集合させられた場所でもありません。ここでは自ずと恐怖を感じて

いたようで、体が重く頭痛がし、放心状態となり、思い返してみるとこの日の残りの日程、何を食べたかなど記憶が殆どありません。又、このツアー中晴天に恵まれていましたが唯一この日だけ雨が降り、それが生きたくても無情にも殺されていった方々の涙のように私達に語り掛けておられると思えてなりませんでした。

* * *

私は正直このツアーに参加するまでは殆ど無知でした。そして行く直前まで本や映画で勉強しましたが、実際にこの目で見

て感じて、一歩踏み込んで考えるという事はとても重要な事だと改めて思いました。

歴史は知ろうとしない限り知る事は出来ません。自分が何の為に生き、何の為に生かされているのか、考える機会が与えられた旅でした。相手の立場になつて物事を考え、理解する努力をする事がこの悲劇を繰り返さない為にも重要だと思えます。心の底から戦争がなくなる事を願います。

無事に祈りの旅が出来た事に、お世話になった多くの方々、祈りに覚えて下さった皆様に心よりお礼を申し上げます。

(神戸聖ミカエル教会信徒)



アウシュビッツ

鳩だより 《敬称略》

祝 堅 信

6月14日(日)
フランスカ 上崎 清美
ルカ 綱本 一希
神戸聖ヨハネ教会

教 籍 移 動

1月11日(日)
ヒルダ 釜山 十二華
東京教区聖アンデレ教会より

5月9日(土)
プリスキラ 長 喜代子
神戸キリスト教会より

6月1日(月)
バルナバ 島田 圭輔
モーセ 島田 智生
徳島インマヌエル教会より
聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂へ

6月8日(月)

柳原 康子
日本基督教団倉敷教会より
倉敷聖クリストファー教会へ

6月14日(日)
フランスカ 上崎 清美
カトリックたかとり教会より
神戸聖ヨハネ教会へ

6月19日(金)
ミカエラ 竹下 綺羅
マリシア 竹下 天留美
東京聖テモテ教会より
松江基督教会へ

6月21日(土)
マルコ 小林 龍一郎
カトリック高槻教会より
洲本眞光教会へ

6月30日(火)
ミカエル 坂井 充仁
神戸聖ミカエル教会より
大阪聖パウロ教会へ

ご 逝 去

6月20日(土)
マーガレット 岡田 ミユリ
松江基督教会

6月21日(日)
マリシア 殿村 賤代
神戸聖ヨハネ教会

神 戸 伝 道 区

◎教会委員会研修会

6月27日(土)、神戸伝道区
の教会委員会研修会が神戸聖ミ
カエル教会で開催。山陰伝道区
から瀬山会治司祭、井田省吾さ
ん、西村典さんをお迎えし、山
陰伝道区の「山陰伝道区は一つ
の教会」という取組についてお
聞きした。参加者33名。

◎神戸昇天教会

6月7日(日)午後、バルナ
バ伝道集会を開催。山口 宰師
(社会福祉法人光朔会オリンピ

ア常務理事・神戸国際大学准教
授)を講師に迎え、「よくわか
る! 認知症とこれからのケア」
のテーマで講演して頂いた。来
会者約50名。

山 陰 伝 道 区

◎松江基督教会

5月31日(日)、中村主教司
式のもと、当教会創立130周
年記念礼拝が行われた。また4
月から当教会の牧師に就任され
た杉野達也司祭の牧師任命式も
行われた。山陰伝道区の各教会
からもお祝いに駆けつけて下さ
り、45名の参加者が与えられ、
共に神様に感謝する一時を持つ
た。礼拝後には、ささやかな祝
会が催され、当教会の礎を築き
上げたバークレー・バックスト
ン司祭にまつわるお話やミニコ
ンサートが行われた。

神戸教区教役者修養会

6月16日(火)から18日(木)
まで、サントピア岡山総社を会
場にして、年に一度の教役者修
養会が開催された。

今回の教役者修養会には、ウ
イリアムス神学館に館長として
出向している吉田雅人司祭をお
迎えし、管区礼拝委員会から配
布された『堅信前の陪餐』を
巡るQ&A』について解説して
頂いた。

来年の管区総会で可決されれ
ば、「堅信前の陪餐」が日本聖
公会においても実施される。今
回の講話を通して「堅信前の陪
餐」について理解を深めること
ができた。(杉野 記)

9月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2015年9月3日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 藤井 尚人

9月の記念逝去教役者

Table with 3 columns: Date, Role, Name. Includes dates from 1st to 20th and names like 枝古恵, 政八好, 方西施, etc.

10月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2015年10月1日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 杉野 達也

10月の記念逝去教役者

Table with 3 columns: Date, Role, Name. Includes dates from 1st to 31st and names like 枝重男, 七昌郎, シュパード, etc.

